

## ✧ 下部消化管

### ◆ 便潜血

消化管からの出血の有無を調べる検査です。食道から胃腸を経て直腸・肛門に至るまで、消化管のどこかに出血があれば、陽性（+）になります。肉眼では見えない微量の出血（潜血）を検出することができます。大腸がんの早期発見に有効です。

### ◆ 大腸内視鏡（オプション検査）

内視鏡を肛門から挿入し大腸の内壁を直接観察します。便潜血検査では陰性の方でも病変が認められることもあり、大腸がん・ポリープ・腺腫・潰瘍などを調べるのに有用です。細胞の一部を採取して調べる病理組織検査（生検）も必要に応じて行われます。検査前の処置として、特別な食事（低残渣食）や下剤の内服が必要です。

### 【主な所見】

大腸ポリープ 大腸腺腫	大腸の粘膜の一部が隆起したもので、8割は腺腫で現在は良性ですが、将来がんになる可能性があるため切除が必要です。放置しておくと徐々に大きくなり、がん化する可能性があります。
大腸がん	大腸粘膜の細胞から発生し腺腫という良性腫瘍の一部ががん化して発生したものと正常粘膜から直接発生するものが有ります。広がりや深さにより早期がんと進行がんに分類されます。
大腸憩室症	大腸にえくぼ状のへこみが出来ます。通常治療の必要はありませんが、炎症や出血をおこすこともあります。
痔核	いぼ状の腫れが出来る、「いぼ痔」（内痔核と外痔核）、肛門の皮膚が切れる「切れ痔」（裂肛）、肛門に膿のトンネルができる「痔ろう」の3種類があります。